



Cisco UCS Server Configuration Utility リリース 4.0(13) ユーザ ガイド

Cisco UCS C シリーズ サーバ向け

2016 年 10 月 27 日

Cisco Systems, Inc.
www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
所在地、電話番号、FAX 番号
は以下のシスコ Web サイトをご覧ください。
www.cisco.com/go/offices

Text Part Number:

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザー側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。



はじめに	1
対象読者	1
マニュアルの構成	1
関連資料	2
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	2
概要	1-1
サポートされるオペレーティング システム	1-1
サポートされるプラットフォーム	1-2
サポートされる周辺デバイス	1-3
ハードウェア要件	1-4
UCS Server Configuration Utility の起動	2-1
cisco.com からの ISO イメージの取得	2-1
UCS-SCU のブート	2-2
仮想メディアの使用	2-2
KVM コンソールについて	2-2
仮想 KVM コンソールの開始	2-2
仮想 KVM コンソールからのブート	2-3
物理メディアの使用	2-3
UCS-SCU の終了	2-4
UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて	3-1
ライセンス契約書	3-1
UCS-SCU GUI ホーム ページ	3-1
[ナビゲーション (Navigation)] ペイン	3-3
[ツールバー (Toolbar)] ペイン	3-4
ネットワークの設定	3-5
サーバ ヘルス チェックの実行	3-6
ログの保存	3-6
サーバ スナップショットの使用	3-6
ハイパーバイザ パーティションの同期	3-8
サーバのリブート	3-8

サーバインベントリの表示	4-1
サーバヘルスの表示	5-1
診断ツール	6-1
診断ツールの機能	6-1
診断ツールの使用	6-2
F7 診断オプションの使用	6-2
クイック テスト	6-3
包括的テスト	6-4
クイック タスク	6-4
テストスイート	6-5
テスト ログの概要	6-5
テストの要約	6-5
非インタラクティブ オフライン診断	6-6
オペレーティング システムのインストール	7-1
ESXi インストール	7-1
基本設定	7-2
ネットワーク設定	7-3
他の OS のインストール	7-4
高速インストール	7-4
カスタム インストール	7-7
Windows Server オペレーティング システムのインストール	7-7
Linux Server Series オペレーティング システムのインストール	7-13
SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール	7-15
RAID レベルの設定	8-1
RAID 設定	8-1
[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページのコンポーネント	8-1
[物理ディスク (Physical Disks)] テーブル	8-1
[論理ディスク (Logical Disks)] テーブル	8-2
RAID アレイの設定	8-3
冗長性を伴わない自動セットアップ	8-4
冗長性を伴う自動セットアップ	8-4
Single-Level RAID の設定	8-5
ネストされた RAID の設定	8-6
RAID アレイのクリア	8-7
すべての仮想ディスクの削除	8-7
単一または複数ディスクの削除	8-7

ログの表示	9-1
システム ログ	9-1
システム イベント ログ	9-1
トラブルシューティング	10-1
UCS-SCU 問題および解決方法	10-1



はじめに

ここでは、『Cisco UCS Server Configuration Utility リリース 4.0(13)』の構成および表記法について説明します。また、関連資料の入手方法やテクニカル サポートの受け方についても説明します。

対象読者

このガイドは、サーバ、ストレージ、ネットワークの管理およびネットワーク セキュリティに責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

マニュアルの構成

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

章	タイトル	説明
第 1 章	概要	ユーティリティの概要と提供されている機能について説明します。
第 2 章	UCS Server Configuration Utility の起動	ユーティリティの起動に関する情報が含まれています。
第 3 章	UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて	GUI とその要素に関する情報が含まれています。
第 4 章	サーバ インベントリの表示	サーバ インベントリの表示に関する情報が含まれています。
第 5 章	サーバ ヘルスの表示	サーバ ヘルスの表示に関する情報が含まれています。
第 6 章	RAID レベルの設定	RAID レベルに関する情報が含まれています。
第 7 章	オペレーティング システムのインストール	オペレーティング システムのインストールに関する情報が含まれています。
第 8 章	診断ツール	診断ツールに関する情報が含まれています。
第 9 章	ログの表示	システム ログおよびシステム イベント ログの表示に関する情報が含まれています。
第 10 章	トラブルシューティング	トラブルシューティング情報と FAQ が含まれています。

関連資料

Cisco Unified Computing System (UCS) C シリーズ ラックマウント サーバのマニュアル セットについては、次のリンク先にあるロードマップ ドキュメントを参照してください。

『[Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)』

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



概要

Cisco UCS Server Configuration Utility (SCU) は、サーバ上のさまざまなタスクを管理するのに役立つアプリケーションです。このユーティリティは、単一のアプリケーションからサーバを簡単に設定および管理するのに役立ちます。

UCS-SCU は、Cisco C シリーズ サーバの設定と保守に関連する複雑さを軽減し、時間を短縮します。サーバの導入も容易になります。このマニュアルには、最小限のリブートおよびオペレーティング システムの自動的な無人インストールで、サーバ ハードウェアの自動認識を通じてサーバをすばやく設定するために役立つ質問を示します。

SCU を使用すると、次の作業を実行できます。

- UCS C シリーズ サーバをアップグレード、トラブルシューティング、および設定する。
- サーバ インベントリを表示する。
- 接続されているハード ドライブの RAID ボリュームを設定する。
- オペレーティング システムをインストールする。
- インタラクティブ オフライン診断を実行する。
- サーバの状態およびログを表示する。



(注)

Cisco UCS SCU は国際化をサポートしていません。

この章の内容は、次のとおりです。

- [サポートされるオペレーティング システム \(1-1 ページ\)](#)
- [サポートされるプラットフォーム \(1-2 ページ\)](#)
- [サポートされる周辺デバイス \(1-3 ページ\)](#)
- [ハードウェア要件 \(1-4 ページ\)](#)

サポートされるオペレーティング システム

UCS-SCU は、次のオペレーティング システムの無人インストールをサポートしています。

- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Red Hat Enterprise Linux 5 Update 10
- Red Hat Enterprise Linux 5 Update 11

- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 4
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 5
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 6
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 7
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 8
- Red Hat Enterprise Linux 7
- Red Hat Enterprise Linux 7 Update 1
- Red Hat Enterprise Linux 7 Update 2
- SUSE Linux Enterprise Server 11 Service Pack 3
- SUSE Linux Enterprise Server 11 Service Pack 4
- SUSE Linux Enterprise Server 12
- SUSE Linux Enterprise Server 12 Service Pack 1
- VMware ESXi 5.1
- VMware ESXi 5.5
- VMware ESXi 6.0
- Ubuntu 12.04
- Ubuntu 14.04.4 LTS
- Ubuntu 16.04.1
- CentOS 6.6
- CentOS 6.7

サポートされるプラットフォーム



UCS-SCU は次のシスコ プラットフォームでサポートされています。

- UCS-C22 M3
- UCS-C24 M3
- UCS-C220 M3
- UCS-C240 M3
- UCS-C220 M4
- UCS-C240 M4
- UCS-C460 M4
- UCS-C3160 M3
- UCS-C3X60 M3
- UCS-C3X60 M4

サポートされる周辺デバイス

表 1-1 に、UCS-SCU でサポートされる LOM および LSI コントローラ デバイスを示します。

表 1-1 LOM および LSI コントローラ デバイス

サーバ	mLOM デバイス	LSI コントローラ	サポートされる RAID レベル
C3260	UCSC-C3260-S IOC	<ul style="list-style-type: none"> ストレージ サーバ (SLOT-MEZZ) 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、5、6、10、50、60 <p> (注) 単一の仮想ドライブに 32 を越える HDD を含めないようにする必要があります。</p>
C3160	Intel I350、Cisco VIC 1227	<ul style="list-style-type: none"> ストレージ サーバ (SLOT-MEZZ) 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、5、6、10、50、60 <p> (注) 単一の仮想ドライブに 32 を越える HDD を含めないようにする必要があります。</p>
C22	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> 9265-8i 9240-8i 9220-4i 9220-8i 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、5、10
C24	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> 9265-8i 9240-8i 9220-8i 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、5、10
C220、C240	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> LSI 9266-8i Cisco UCSC RAID SAS 2008M-8i LSI 内蔵 MegaRAID 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、5、6、10、50、60 0、1、5、10、50 0、1、5 (TSOC がサーバにインストールされている場合)、10
C220 M4	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> 3108 LSI 内蔵 MegaRAID 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、1E、5、6、10、50、および 60
C240 M4	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> 3108 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、1E、5、6、10、50、および 60
C460 M4	X540	<ul style="list-style-type: none"> 3108 9361 	<ul style="list-style-type: none"> 0、1、1E、5、6、10、50、および 60 0、1、5、6、10、50、および 60



(注)

UCS-SCU の RAID 設定ユーティリティは、システムを再起動した後、この機能エリアの開始時にのみ物理ドライブを検出します。この機能エリア内で移動中にハードディスクのドライブを削除または追加しないでください。



(注)

一部の LSI RAID コントローラは、RAID 設定中の動作完了に時間がかかります。SCU はこの問題を制御しません。回避策として RAID を再作成できます。または、動作が完了するまで待機してください。

ハードウェア要件

次に、UCS-SCU の最小ハードウェア要件を示します。

- **CD-ROM ドライブ:** UCS-SCU を起動し、実行するためには、USB CD/DVD-ROM ドライブが必要です。UCS-SCU を起動するために、Cisco IMC KVM で仮想メディア オプションも使用できます。
- **マウス:** 一部の機能では、ナビゲーション用に標準マウス (PS/2 または USB) が必要です。
- **USB ディスク オンキー デバイス:** UCS-SCU のログの保存などの機能のために、USB ディスク オンキーが必要です。
- **RAM:** 最低 1 GB の RAM。使用可能な RAM が最低推奨値より小さい場合、UCS-SCU は適切に機能しません。
- **ネットワーク アダプタ:** support.cisco.com からの OS ドライバのダウンロードなど、一部のオプション機能にはネットワーク アクセスが必要です。任意の単一のオンボード NIC アダプタ接続がサポートされます。



(注)

現在、UCS-SCU は Intel アダプタだけをサポートしています。

- **RAID カード:** RAID 設定および OS のインストールは、選択されたコントローラでサポートされます。詳細については、次のマニュアルを参照してください。
 - [『Hardware and Software Interoperability Matrix』](#)



UCS Server Configuration Utility の起動

UCS Server Configuration Utility (SCU) は 64 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージで、シスコ ラック サーバで RAID 論理ボリュームの設定、オペレーティング システムのインストール、診断の実施などの操作を実行するために使用できます。これは、一度に 1 つのサーバで実行されるように設計されています。



(注) UCS-SCU は、UCS C220 M3 および C240 M3 サーバの F6 ブート オプションから起動できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [cisco.com からの ISO イメージの取得 \(2-1 ページ\)](#)
- [UCS-SCU のブート \(2-2 ページ\)](#)
- [UCS-SCU の終了 \(2-4 ページ\)](#)

cisco.com からの ISO イメージの取得

サーバ用の ISO ファイルをオンラインで検索するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html> に移動します。
- ステップ 2 中央のカラムで [ユニファイド コンピューティング (Unified Computing)] をクリックします。
- ステップ 3 右側のカラムで [Cisco UCS C シリーズ ラックマウント スタンドアロン サーバ ソフトウェア (Cisco UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software)] をクリックします。
- ステップ 4 右側のカラムのサーバ モデルの名前をクリックします。
- ステップ 5 [ソフトウェア タイプの選択 (Select a Software Type)] リストで、[Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility] を選択します。
[ソフトウェアのダウンロード (Download Software)] ページが表示され、リリース バージョンおよび UCS-SCU イメージが示されます。
- ステップ 6 [今すぐダウンロード (Download Now)] をクリックして ISO ファイルをダウンロードします。
- ステップ 7 次のページで情報を確認し、[ダウンロードを続行 (Proceed With Download)] をクリックします。プロンプトが表示された場合は、cisco.com の資格情報を使用して、ログインします。
- ステップ 8 次の画面に進んでライセンス契約書に同意し、SCU ISO ファイルを保存する場所を参照します。

UCS-SCU のブート

UCS-SCU アプリケーションは、次のいずれかの方法で起動できます。

- [仮想メディアの使用 \(2-2 ページ\)](#)
- [物理メディアの使用 \(2-3 ページ\)](#)

仮想メディアの使用

仮想メディアを使用した UCS-SCU アプリケーションのブートに KVM コンソールを使用できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [KVM コンソールについて \(2-2 ページ\)](#)
- [仮想 KVM コンソールの開始 \(2-2 ページ\)](#)
- [仮想 KVM コンソールからのブート \(2-3 ページ\)](#)

KVM コンソールについて

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。



(注) KVM コンソールには、Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.5.0 以降が必要です。

KVM コンソールには次のタブがあります。

- [KVM]: このタブには、アプリケーションの起動時に UCS-SCU アプリケーションが表示されます。
- [仮想メディア (Virtual Media)]: このタブでは、仮想ドライブに次のものを対応付けることができます。
 - コンピュータまたはネットワーク上の CD/DVD
 - コンピュータまたはネットワーク上のディスク イメージ ファイル (ISO または IMG ファイル)
 - コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

仮想 KVM コンソールの開始

仮想 KVM コンソールを開始するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco IMC にログインします。

ステップ 2 [Launch KVM Console] をクリックします。

仮想 KVM コンソールにサーバ コンソールが表示されます。

仮想 KVM コンソールからのブート

はじめる前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com からの ISO イメージの取得](#)」セクション(2-1 ページ)を参照してください。

仮想 KVM コンソールを使用して UCS-SCU アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 デスクトップから Cisco IMC にログインします。
 - ステップ 2 [KVM コンソールの起動(Launch KVM Console)]をクリックして KVM コンソールを起動します。
 - ステップ 3 [仮想メディア(Virtual Media)]タブをクリックします。
[仮想メディア (Virtual Media)] タブが開きます。
 - ステップ 4 [イメージの追加(Add Image)]をクリックします。
 - ステップ 5 ISO ファイルを参照して選択し、[開く (Open)]をクリックしてイメージをマウントします。
 - ステップ 6 [クライアント ビュー(Client View)] セクションで、追加した ISO ファイルの [マッピング済み (Mapped)] カラムにあるチェックボックスを選択して、マッピングが完了するのを待ちます。
KVM コンソールの [詳細 (Details)] セクションに進行状況が表示されます。
 - ステップ 7 Cisco IMC で [サーバの電源再投入(Power Cycle Server)]をクリックしてサーバをリブートします。
 - ステップ 8 サーバが起動したら、F6キーを押してブート デバイスを選択します。
ブート選択メニューが表示されます。
 - ステップ 9 矢印キーを使用して [シスコ仮想 CD/DVD(Cisco Virtual CD/DVD)]を選択し、Enter を押します。
サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。
-

物理メディアの使用

はじめる前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com からの ISO イメージの取得](#)」セクション(2-1 ページ)を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD を作成します。

物理 CD/DVD を使用してサーバ上でアプリケーションをブートするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 USB ポート経由でサーバに USB DVD ドライブを接続します。
 - ステップ 2 DVD ドライブに物理メディアを挿入します。
 - ステップ 3 サーバを再起動し、F6キーを押してブート選択メニューを表示します。ブート デバイスとして **CDROM ドライブ**を選択します。
サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。
-

UCS-SCU の終了

UCS-SCU アプリケーションを終了するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 ディスク ドライブから .iso ディスクを取り出します。
- ステップ 2 [再起動 (Reboot)] をクリックし、[はい (Yes)] をクリックしてサーバのリブートを確定します。
-



UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて

UCS-SCU GUI は、オペレーティング システムのインストール、RAID 設定、ファームウェアの更新などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ここでは、次の内容について説明します。

- [ライセンス契約書\(3-1 ページ\)](#)
- [UCS-SCU GUI ホーム ページ\(3-1 ページ\)](#)

ライセンス契約書

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンド ユーザ ライセンス契約です。このライセンスに同意するには、[同意する (I Accept)] を選択して [次へ (Next)] をクリックします。

UCS-SCU GUI ホーム ページ

図 3-1 に UCS-SCU GUI および GUI のさまざまな要素を示し、表 3-1 に各要素の説明を示します。

図 3-1 UCS-SCU GUI

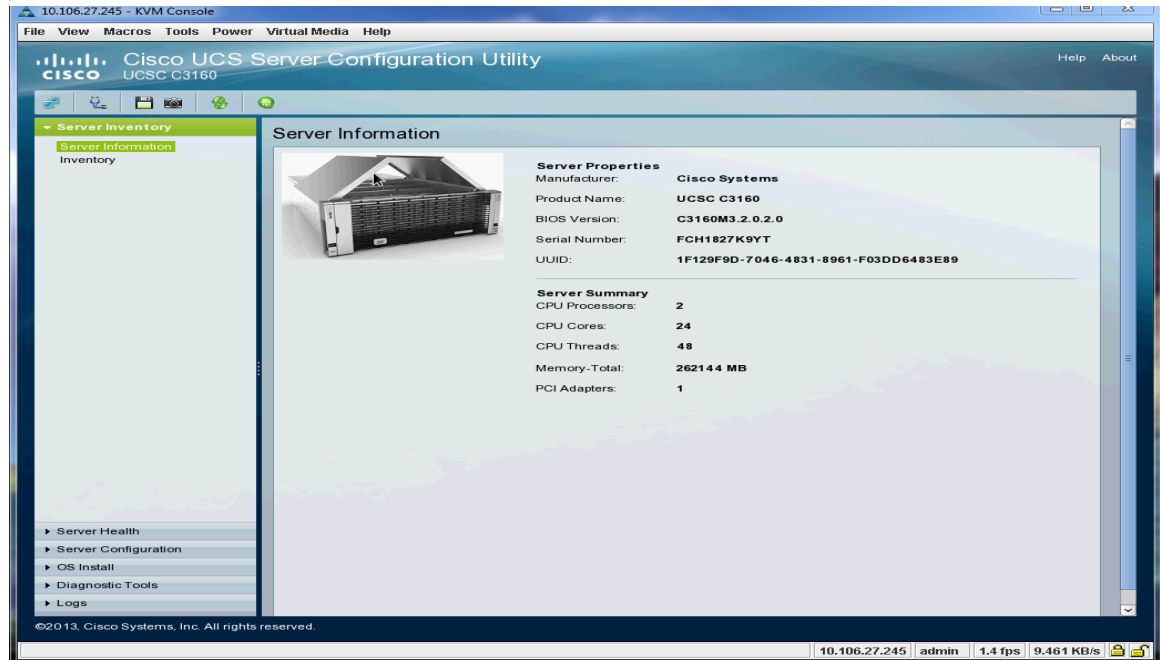


表 3-1 UCS-SCU GUI の要素

要素	説明
ナビゲーション ペイン	UCS-SCU のユーザ インターフェイスの左側に表示されます。すべてのナビゲーション ペインの要素の説明については、表 3-2を参照してください。
ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバー アイコンの説明については、を参照してください。
ヘルプ	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[コンテンツ (Content)] ペイン	GUI の右側に表示されます。[ナビゲーション (Navigation)] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツ ペインに表示されます。
[テストの要約 (Tests Summary)] ペイン	合格したテスト、キュー内のテスト、不合格だったテストの詳細が表示されます。[診断ツール (Diagnostic Tools)] が選択されている場合にのみ表示されます。

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- [\[ナビゲーション \(Navigation\)\] ペイン \(3-3 ページ\)](#)
- [\[ツールバー \(Toolbar\)\] ペイン \(3-4 ページ\)](#)

[ナビゲーション (Navigation)] ペイン

表 3-2 で、[ナビゲーション (Navigation)] ペインの要素について説明します。

表 3-2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの要素

要素	説明
サーバ インベントリ (Server Inventory)	<p>サーバの情報およびインベントリを表示します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> サーバ情報 (Server Information) インベントリ (Inventory) <p>サーバ インベントリの詳細については、第 4 章「サーバ インベントリの表示」を参照してください。</p>
サーバの状態 (Server Health)	<p>CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および Cisco IMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。</p> <p>サーバヘルスの詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。</p>
サーバの設定 (Server Configuration)	<p>サーバに取り付けられたハードドライブの RAID ボリュームを設定します。</p> <p>RAID 設定ページへのリンクが含まれています。</p> <p>サーバ設定の詳細については、第 8 章「RAID レベルの設定」を参照してください。</p>
OS インストール (OS Install)	<p>完全無人モードで RHEL、SLES、Windows、および ESXi オペレーティングシステムをインストールします。すべてのオンボードコンポーネントの最新のドライバが、オペレーティングシステムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、第 7 章「オペレーティングシステムのインストール」を参照してください。</p>
診断ツール (Diagnostic Tools)	<p>サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。</p> <p>診断ツールの詳細については、第 6 章「診断ツール」を参照してください。</p>
ログ (Logs)	<p>サーバのシステム ログおよびシステム イベント ログが表示されます。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム ログ (System Logs) システム イベント ログ (System Event Log) <p>ログの詳細については、第 9 章「ログの表示」を参照してください。</p>

[ツールバー (Toolbar)] ペイン

特定のタスクを実行するために使用できるすべての UCS-SCU アイコンについて説明します。



表 3-3 ツールバーの要素

ツールバー アイコン	名前	機能
	ネットワークの設定 (Network Configuration)	IP アドレス、DNS、サブネット マスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	サーバのプロブ (Probe Server)	ヘルス チェックを実行します。
	ログの保存 (Save Logs)	USB にログを保存します。
	サーバ スナップショット (Server Snapshot)	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	更新 (Refresh)	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。
	ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)	同期外 RAID 1 パーティション内のディスクに書き込まれたデータを交換ディスクと同期できます。
	リブート (Reboot)	サーバを再起動します。


ここでは、ツールバーの要素について詳細に説明します。

- [ネットワークの設定 \(3-5 ページ\)](#)
- [サーバヘルスチェックの実行 \(3-6 ページ\)](#)

- ログの保存(3-6 ページ)
- ハイパーバイザ パーティションの同期(3-8 ページ)
- サーバのリブート(3-8 ページ)

ネットワークの設定

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ツールバーの [ネットワークの設定(Network Configuration)] ボタンをクリックします。
[ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [ネットワークの設定(Network Configuration)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
 - (任意) [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
-  **(注)** cisco.com からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合は、手順 **b.** に進みます。
-
- [インターネットへの直接接続 (Direct Connection to internet)] または [手動プロキシ (Manual Proxy)] を選択します。[手動プロキシ (Manual Proxy)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [HTTP プロキシ サーバの URL (HTTP Proxy Server URL)] フィールドに、プロキシ サーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [ポート (Port)] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
 - [プロキシ サーバのユーザ名 (Proxy Server UserName)] フィールドに、プロキシ サーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [プロキシ サーバのパスワード (Proxy Server Password)] フィールドに、プロキシ サーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。
- ステップ 3** [設定(Configure)] をクリックして設定を保存します。
-

ネットワーク設定は 1 度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- Cisco Flexible Flash にイメージを更新するとき。
- オペレーティング システムのインストール時に、ネットワーク共有または cisco.com からドライバをダウンロードするとき(▲を参照)。

サーバヘルス チェックの実行

サーバのプロブ機能では、サーバ サブシステムのヘルス チェックを実行できます。[サーバのプロブ (Probe Server)] アイコンをクリックすると、サーバヘルス チェックが開始されます。

ヘルス チェックの結果を表示するには、ナビゲーション ペインの [サーバの状態 (Server Health)] タブをクリックします。

[サーバの状態 (Server Health)] タブの詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。

ログの保存

ログの保存機能を使用してログ ファイルを保存できます。ログの保存を使用する前に、ログ ファイルを保存するための USB フラッシュ ドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

サーバスナップショットの使用

UCS SCU のユーザ インターフェイスでサーバスナップショット機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュ ドライブが接続されていることを確認します。フラッシュ ドライブが使用できないと、サーバスナップショットで作成されたログ ファイルは保存されません。

サーバスナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバ コンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイック テストを実行します。サーバスナップショットを開始すると、プロセッサ、メモリ、ディスク、キャッシュ、ネットワーク インターフェイス テスト、QPI リンクおよびトラフィック、LSI バッテリ バックアップおよび RAID アダプタ テスト、チップセット テストなどの一連のクイック テストがサーバ上で実行されます。

サーバスナップショット プロセスの完了時間は、インストールされているメモリ、物理ディスクの数とサイズ、ネットワーク インターフェイスの数などのサーバ設定によって異なります。このプロセスは、30 ～ 45 分で完了する場合も、数時間かかる場合もあります。

サーバスナップショット プロセスが完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバインベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバインベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。
- このフラッシュ ドライブがないと、サーバスナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。
- ステップ 2** UCS SCU インターフェイスの [サーバスナップショット (Server Snapshot)] アイコンをクリックします。
- USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [はい (Yes)] をクリックして続行します。
- ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するように求められます。

ステップ 4 ドロップダウン メニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

サーバスナップショット プロセスが開始されます。このプロセスには、最大 20 ～ 30 分かかります。サーバスナップショット プロセスの進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。このプロセスの実行中は、サーバでその他のタスクを実行できません。プロセスの実行時にいつでも、ダイアログボックスの [キャンセル (Cancel)] をクリックして、サーバスナップショット プロセスをキャンセルできます。



(注) サーバスナップショット プロセスの実行時は、KVM 接続が終了しても、プロセスが中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバスナップショット プロセスがまだ実行中かまたは実行完了していることがわかります。ただし USB フラッシュ ドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュ ドライブへの接続が失われるので、サーバスナップショット プロセスが停止します。

ステップ 5 スナップショット プロセスが完了すると、プロセスが完了したことを示すダイアログボックス メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ログ ファイルは、USB フラッシュ ドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバスナップショット が取得された日付が含まれます。たとえば、Server_UCSC-C240-M3S_FCH1716V24S_06_28_2014.txt は 2014 年 6 月 28 日に UCS C-240 サーバ用に取得されたサーバスナップショットのログ ファイル名です。

ステップ 6 任意のエディタでこのファイルを開きます。



(注) 一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします。

サーバのクイック テストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバ コンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイック テストに合格しない理由は特定できません。サーバスナップショット プロセスのログ ファイルの表示中に、サーバ コンポーネントがクイック テストに合格しなかったことに気づいた場合は、[診断 ツール (Diagnostic Tools)] の下にあるクイック テスト ログを確認してください。



(注) 診断ツールの詳細については、[第 6 章「診断ツール」](#) を参照してください。

サーバスナップショット プロセスのログ ファイルには次の情報が含まれます。

- シャーシ要約
- ベースボード サマリー
- Cisco IMC サマリー
- プロセッサ サマリー
- メモリ サマリー
- ストレージ サマリー
- PCI アダプタ サマリー
- 電源サマリー
- サーバ診断クイック テストの結果

- サーバ プローブ データ
- サーバ インベントリ データ

ハイパーバイザ パーティションの同期

UCS-SCU は、Cisco FlexFlash SD カードをサポートするサーバ上で、SD カード上に RAID 1 ディスクとして設定されるハイパーバイザ仮想ディスクを同期するためのオプションを提供します。この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できます。UCS-SCU は、サーバ上の SD カードの有無を検出します。

一方のメンバの SD カードスロットが破損している場合に、このオプションを使用して RAID-1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザ データを同期します。この同期を開始できるのは、2 枚のカードが検出され、RAID-1 が正常でない(一方のメンバが破損)と判断された場合だけです。



(注)

この機能は C220 M4 サーバと C240 M4 サーバでは利用できません。Cisco IMC からこれらのサーバに対してこのタスクを実行できます。

ハイパーバイザ仮想ディスクを同期するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 ツールバーの [ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)] アイコンをクリックします。
ダイアログボックスで、ハイパーバイザ RAID を同期することを確認するよう求められます。
- ステップ 2 [はい(Yes)] をクリックします。
同期が完了すると、プロセスの完了を示すダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3 OK をクリックします。
ツールバーの [ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)] アイコンはグレー表示されます。

サーバのリブート

サーバをリブートするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 ツールバーの [再起動 (Reboot)] アイコンをクリックします。
[再起動 (Reboot)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2 [はい(Yes)] をクリックしてリブートします。
サーバがリブートし、UCS-SCU GUI が再表示されます。



サーバインベントリの表示

この章では、サーバインベントリの表示について説明します。

サーバのインベントリを実行するためにサーバインベントリ機能を使用できます。サーバの概要、サーバプロパティに加えて、CPU、メモリ、電源、ファン、IO デバイス、ストレージ、BIOS、Cisco IMC などのサーバ上のサブシステムのインベントリを表示できます。

サーバのインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインの [サーバインベントリ (Server Inventory)] タブをクリックします。
- ステップ 2** 左側のナビゲーション ペインで [サーバ情報 (Server Information)] タブをクリックします。サーバプロパティとサーバの概要が表示されます。
- ステップ 3** [インベントリ (Inventory)] タブをクリックして、CPU、メモリ、電源、ファン、IO デバイス、ストレージ、BIOS、および Cisco IMC などのサーバのサブシステムのインベントリを表示します。

表 4-1 で、表示できるさまざまなサブシステムの詳細について説明します。

表 4-1 サーバインベントリのプロパティ

サブシステム	説明
CPU	サーバの CPU のソケット名、ステータス、コアの数、スレッドの数、ベンダー、バージョン、有効なコア、シグニチャを表示します。
メモリ	サーバの DIMM のサイズ、データの幅、ロケータ、速度、およびシリアル番号を表示します。
電源	サーバの電源装置の入力電力、出力電力(W)、部品番号、バージョン、シリアル番号、製品名を表示します。
ファン	サーバのファンの状態、電源状態、速度を表示します。
IO デバイス	サーバの I/O デバイスのタイプ、ベンダー、説明、MAC アドレス、およびシリアル番号を表示します。
ストレージ	サーバのストレージ デバイスのタイプ、説明、ベンダー、サイズ、バス情報、およびシリアル番号を表示します。
BIOS	サーバの BIOS のベンダー、バージョン、物理 ID、サイズ、キャパシティ、およびブート順を表示します。
Cisco IMC	サーバの Cisco IMC の IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、および IPMI のバージョンを表示します。



サーバヘルスの表示

この章では、サーバヘルスの表示について説明します。

サーバヘルス機能を使用すると、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに、サーバのすべてのサブシステム（メモリ、プロセッサ、電源、ハードディスク、ファン、チップセット、および Cisco IMC など）の状態を表示できます。

サーバの状態を表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [サーバの状態 (Server health)] タブをクリックします。
サーバヘルスは、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに右側のコンテンツ ペインに表示されます。
- ステップ 2** ツールバーの [サーバのプロブ (Probe Server)] をクリックして、サブシステムの最新のステータスを表示します。[サーバのプロブ (probe server)] をクリックした後でページを更新するには、[サーバの状態 (Server Health)] をもう一度クリックします。
- ステップ 3** サブシステムに対応する行をクリックして、[サーバの状態の詳細 (Server Health Details)] ペインにサーバヘルスの詳細を表示します。



(注)

サーバヘルス ペインのメッセージ カラムに、サブシステムに対応する最初の問題が表示されます。サブシステムに複数の問題がある場合は、[サーバの状態の詳細 (Server Health Details)] ペインに表示されます。



診断ツール

シスコ サーバのハードウェア上の問題を診断するには、診断ツールを使用できます。ユーザ インターフェイスはテスト実行のステータスを表示し、ハードウェアの問題を解決するためにログ ファイルを検査します。

この章は、次の項で構成されています。

- [診断ツールの機能 \(6-1 ページ\)](#)
- [診断ツールの使用 \(6-2 ページ\)](#)

診断ツールの機能

診断ツールを使用して次のことが可能です。

- さまざまなサーバ コンポーネントに対してテストを実行し、ハードウェアの問題を見つけたり、テスト結果を表形式で分析する。
- 使用可能なテストを閲覧することなく、クイック タスク機能を使用してすべてのテストを実行する。
- いくつかのテストを並行して実行すると、他のテストに干渉する可能性があるため、逐次テストを実行する。
- デフォルトとは異なる別の引数値を入力して、テストを設定する。
- テスト スイート機能を使用して、実行するテストを選択する。
- 外部 USB フラッシュ ドライブに、SEL ログなどのすべてのテスト ログを保存する。
- サーバの現在の状態を調べ、ハードウェアの問題を表示する。

表 6-1 で、特定の診断機能を使用すべき場合について説明します。

表 6-1 診断の使用

診断コンポーネント	機能
F7 オプション	サーバのブート中に特定のテストのセットを実行するには、このオプションを使用します。テストされるコンポーネントは、メモリ、プロセッサ、キャッシュ、スマート ディスク、QPI、メモリ パターン、RAID アダプタです。
クイック テスト	所定の期間内のサブシステムのステータスをすばやく確認する場合は、このテストを使用します。クイック テストでテストできるコンポーネントは、プロセッサ、キャッシュ、メモリ、ディスク、ビデオ、ネットワーク、QPI、Cisco IMC、RAID およびチップセットです。

表 6-1 診断の使用 (続き)

診断コンポーネント	機能
包括的テスト	サブシステムを詳細にテストする場合は、このテストを使用します。これらのテストは、サブシステムに負荷を加え、エラーを報告するように設計されています。実行できるテストは、プロセッサ、メモリ、QPI、ディスク、および NUMA です。
クイック タスク	包括的テストとクイック テストの両方が統合されたテストを実行できます。クイック タスクを使用して、両方の種類のテストを実行できます。
テスト スイート	クイック テストと包括的テストで使用可能なすべてのテストは、ここで使用できます。テスト スイートでは、必要な数のテストを選択し(チェックボックスを使用)、これらを同時に実行できます。
テスト ログの概要	実行したすべてのテストのログ、エラー ログ、分析を表示するには、テスト ログの概要を使用します。ログをソートするため、4 つのフィルタを使用できます。
テストの要約	左側のナビゲーションのこのテーブルは、実行したテストの結果を、合格したテスト、キューに格納されているテスト、不合格だったテストの形式で表示します。

診断ツールの使用

ここでは、診断ツール コンポーネントを使用する手順について説明します。内容は次のとおりです。

- [F7 診断オプションの使用 \(6-2 ページ\)](#)
- [クイック テスト \(6-3 ページ\)](#)
- [包括的テスト \(6-4 ページ\)](#)
- [クイック タスク \(6-4 ページ\)](#)
- [テスト スイート \(6-5 ページ\)](#)
- [テスト ログの概要 \(6-5 ページ\)](#)
- [非インタラクティブ オフライン診断 \(6-6 ページ\)](#)

F7 診断オプションの使用

UCS-SCU は、サーバのブート時にいくつかの定義済み診断テストを実行するオプションを提供します。F7 オプションを使用すれば、これらの診断テストを開始できます。この F7 オプションは、Secure Digital (SD) メモリ カード上にある使用可能な SCU イメージを起動し、自動的に一連の定義済み診断テストを実行します。

サーバ上に使用可能な SD カードがない場合は、vMedia を使用して SCU イメージをマップする必要があります。vMedia を使用して SCU イメージをマッピングしなかった場合や、SCU イメージを保存した SD カードがサーバ上にない場合は、これらの診断テストを完了できません。テストが完了すると、SCU インターフェイスが表示され、テスト結果が表示されます。インターフェイスには、診断テストの合格、不合格、完了待ちなどを示す進捗レポートが表示されます。



(注)

このオプションは、サーバのブート時にのみ使用できます。

クイック テスト

これらのテストを実行すると、迅速にハードウェアの問題を特定できます。通常は、少数のサブシステムの限定された機能を実行してこれらのテストが完了するまでに 20 ～ 30 分かかります。包括的なテストでは、より網羅的な診断を行います。

クイック テストを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで [診断ツール(Diagnostic Tools)]をクリックします。
- ステップ 2 [テスト(Tests)]をクリックします。
- ステップ 3 [クイック テスト(Quick Test)]折りたたみボタンをクリックし、実行可能なクイック テストの種類を表示します。
- ステップ 4 サブシステム(メモリ、ビデオ、ネットワークなど)をクリックします。
- ステップ 5 コンテンツ ペインで [テストの実行(Run Test)]をクリックします。

テストが実行され、ステータスが [テスト ステータス (Tests Status)] 領域に表示されます。

表 6-2で、クイック テストで網羅されるサブシステムについて説明します。

表 6-2 クイック テスト

テスト	説明
プロセッサ テスト (Processor Test)	プロセッサ固有のテストを実行します。このテストは、使用可能なすべてのコアで演算と浮動小数点操作を実行します。また、テスト期間を指定できます。
キャッシュ テスト (Cache Test)	CPU キャッシュを調べるためのテストを実行し、訂正可能および訂正不可能なキャッシュ エラーを確認します。
メモリ テスト (Memory Test)	DIMM およびメモリ コントローラをテストします。
ディスク テスト (Disk Test)	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
ビデオ テスト (Video Test)	ビデオ メモリに負荷を与えるテストを実行します。
ネットワーク テスト (Network Test)	内部ループバック テスト、レジスタ テスト、Electrically Erasable Programmable Read Only Memory (EEPROM) テスト、および割り込みテストを実行して、使用できるネットワーク インターフェイスをテストします。
QPI テスト (QPI Test)	高速バス相互接続のファブリックをテストします。
Cisco IMC テスト (Cisco IMC Test)	IPMI インターフェイスを介して Cisco IMC のセルフ テストを実行し、SEL の十分性を確認します。
チップセット テスト (Chipset Test)	チップセットを確認するためのテストを実行し、チップセットの RAS レジスタにエラーが記録されないかどうかを確認します。
RAID アダプタ テスト (RAID Adapter Test)	LSI MegaRAID 926x および 8708 コントローラと、バッテリー バックアップユニットの診断をチェックするためのテストを実行します。

包括的テスト

包括的テストの実行には何時間もかかるため、通常はクイックテストでサーバの問題を診断できない場合に実行します。このテストは、複数のハードウェアコンポーネントをテストし、サーバの複数のコンポーネントが原因で発生する可能性のある問題を検出するように設計されています。

個々のテストはユーザ定義の条件をテストするようにカスタマイズできます。一群のテストを実行することもできます。

包括的テストを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左側のナビゲーションペインで [診断ツール(Diagnostic Tools)]をクリックします。
- ステップ 2 [テスト(Tests)]をクリックします。
- ステップ 3 [包括的テスト(Comprehensive Test)]折りたたみボタンをクリックし、実行可能な包括的テストの種類を表示します。
- ステップ 4 サブシステム(プロセッサ、メモリ、またはネットワークなど)をクリックします。
- ステップ 5 コンテンツペインで [テストの実行(Run Tests)]をクリックします。

テストが実行され、ステータスが [テストステータス (Tests Status)] 領域に表示されます。

表 6-3で、包括的テストで網羅されるサブシステムについて説明します。

表 6-3 **包括的テスト**

テスト	説明
プロセッサ ストレス テスト (Processor Stress Test)	システムの CPU およびメモリに最大負荷を課します。このテストを実行する時間(分)を設定できます。
メモリ パターン テスト (Memory Pattern Test)	メモリにさまざまなパターンを書き込んで読み込み、使用できる空きメモリをテストします。
QPI ストレス テスト (QPI Stress Test)	NUMA ノード間のトラフィックを生成し、QPI 相互接続に負荷を与えるためのテストを実行します。
スマート ディスク テスト (Smart Disk Test)	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
NUMA テスト (NUMA Test)	NUMA のメモリ アクセス パターンに負荷を与え、エラーがないかどうかを確認するためのテストを実行します。
VDisk ストレス テスト (VDisk Stress Test)	システムの仮想ディスクに負荷を与えるテストを実行します。仮想ディスクのサイズによっては、このテストは長時間実行されます。
ラック テスト (Enclosure Test)	C3160 サーバ SAS エキスパンダのクイック基本テストを実行します。

クイック タスク

クイック タスクでは、診断ツールをただちに開始することができます。ここからすべてのテスト(クイックおよび包括的)を実行して、シスコに詳細を報告し、ログをトラブルシューティングしたり、システムの問題に関する情報を提供することができます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左側のナビゲーションペインで [診断ツール(Diagnostic Tools)]をクリックします。
- ステップ 2 [クイック タスク (Quick Tasks)]をクリックします。

- ステップ 3** ツールバーから [クイック テストの実行 (Run Quick Tests)] または [包括的テストの実行 (Run Comprehensive Test)] を選択します。

ステータスは、[テスト ステータス (Test Status)] ペインに表示されます。また、[テスト ログの概要 (Tests log summary)] で詳細なテスト結果を参照できます。

テストスイート

テストスイートを使用すると、クイックテストと包括テストを一括して実行することができます。使用可能なさまざまなテストが、テストの種類および説明とともに一覧表示されます。リストから実行する任意の数のテストを選択し、[テスト ステータス (Tests Status)] カラムでテストの結果を参照できます。

テストスイートを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [テストスイート (Tests Suite)] をクリックします
- ステップ 2** 必要なチェックボックスをクリックして実行するテストを選択します。
- ステップ 3** [テストスイートの実行 (Run Tests Suite)] をクリックし、テストスイートに追加したテストを実行します。

ステータスは、名前、スイート ID、結果、開始時刻および終了時刻とともに、[テスト ステータス (Tests Status)] ペインに表示されます。また、[テスト ログの概要 (Tests Log Summary)] を表示して、テストスイート中のテストの実行ステータスを確認できます。

テストログの概要

トラブルシューティング用にテストログを調べる場合に、テストログの概要機能を使用します。テストログの概要を表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [診断ツール (Diagnostic Tools)] をクリックします。
- ステップ 2** 左側のナビゲーション ペインで [テストログの概要 (Tests Log Summary)] をクリックします。
- ステップ 3** フィルタ ドロップダウンからフィルタを選択し、[実行 (Go)] をクリックします。テストのステータス、結果、開始時刻と終了時刻が表示されます。
- ステップ 4** 詳細については、特定のログ エントリをクリックします (たとえば、[メモリ テスト (memory test)] をクリックします)。

ログ、エラー ログ (テストに失敗した場合)、特定のテストの分析がコンテンツ ペインに表示されます。

テストの要約

左のナビゲーション領域の [テストの要約 (Test Summary)] テーブルには、合格したテスト、キュー内のテスト、および不合格だったテストの要約が表示されます。

非インタラクティブ オフライン診断

Cisco IMC バージョン 1.5(2) 以降の Cisco UCS C シリーズ サーバは、XMLAPI インターフェイスを使用した、手動による介入なしでのサーバ スナップショット テストの実行をサポートします。XMLAPI クライアントを使用して C シリーズ サーバでサーバ スナップショット プロセスを実行し、SFTP または SCP のいずれかを無人でを使用して、サーバ スナップショットの出力結果を別のマシン (Windows または UNIX) にコピーできます。非インタラクティブ オフライン診断は、複数の C シリーズ サーバで同時に実行でき、ログをリモート サーバに自動的にアーカイブできます。

XML API の使用の詳細については、次の URL にある『*Cisco UCS Rack-Mount Servers Cisco IMC XML API Programmer's Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/sw/api/b_Cisco_IMC_api_book.html



オペレーティング システムのインストール

オペレーティング システムの無人インストール機能は、Microsoft Windows および RedHat Linux オペレーティング システムのインストールに役立ちます。UCS-SCU には、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバ ロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレイにオペレーティング システムをシームレスにインストールすることができます。

UCS-SCU は、仮想ディスク、および AHCI モードのソリッドステート ディスク (SSD) に対してのみオペレーティング システムのインストールをサポートします。物理ディスクでのインストールはサポートされていません。UCS-SCU でサポートされているすべてのオペレーティング システムは、Windows、Linux および RHEL という 3 つのグループに分類されます。



(注)

オペレーティング システムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグ タイマーをディセーブルにしてください。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも短い期間に設定されていると、オペレーティング システムのインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。

オペレーティング システムをインストールするには、次の 2 つの方法があります。

- [ESXi インストール \(7-1 ページ\)](#): カスタマイズ設定を使用してオペレーティング システムをインストールするには、[ESXi インストール (ESXi Install)] オプションを使用します。
- [高速インストール \(7-4 ページ\)](#): デフォルト設定を使用してオペレーティング システムをインストールするには、[高速インストール (Quick Install)] オプションを使用します。
- [カスタムインストール \(7-7 ページ\)](#): オペレーティング システムをインストールする前にデフォルト設定を変更するには、[カスタムインストール (Custom Install)] オプションを使用します。

ESXi インストール

[ESXi インストール (ESXi Install)] オプションでは、オペレーティング システムをインストールしてデフォルト設定をカスタマイズできます。



(注)

C220 M4 サーバおよび C240 M4 サーバの SD カードでは、HV パーティションの仮想ドライブをイネーブルにしてホストをリブートすると、ESXi インストールがサポートされます。

ステップ 1 オペレーティング システムの無人インストール機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS インストール (OS Install)] をクリックします。

[OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。

- ステップ 2** [ESXi] オプション ボタンをクリックし、[オペレーティング システム (Operating System)] ドロップダウン リストから ESXi のバージョンを選択します。
- [エディション (Edition)] ドロップダウン リストが表示されます。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
- 選択した ESXi バージョンの [OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [基本設定 (Basic Configuration)] 領域で、次の手順を実行します。
- [ルート パスワード (Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
 - [ルート パスワードの確認 (Confirm Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを再入力します。
 - [メディア タイプ (Media Type)] ドロップダウン リストから、OS をインストールするディスクを選択します。次のいずれかになります。





(注) SCU のブート中に検出されたディスクは、[メディア タイプ (Media Type)] に一覧表示されます。

- [ローカル ディスク (Local Disk)]: ターゲットサーバで使用可能なローカル HDD を示します。
- [SAN ディスク (SAN Disk)]: 次の SAN ディスクが ESXi インストールでサポートされます。
 - [リモート ディスク (Remote Disk)]: ターゲット サーバに割り当てられた SAN ベースの FC または FCoE ディスクを示します。
 - [iSCSI ディスク (iSCSI Disk)]: ターゲット サーバで設定された SAN ベースの iSCSI ディスクを示します。このオプションを選択した場合、次のパラメータを確認し、更新してください。

表 7-1 iSCSI パラメータ

パラメータ	説明
[iSCSI ターゲット アドレス (iSCSI Target Address)] フィールド	IPv4 アドレスのみをサポートします。
[インターフェイス名 (Interface Name)] ドロップダウン リスト	iSCSI が有効なインターフェイスを一覧表示します。 iSCSI ターゲットに到達可能なインターフェイスを選択する必要があります。前提条件として、選択したインターフェイスのオプション ROM は iSCSI の詳細によってあらかじめ設定しておく必要があります。
[イニシエータ IP アドレス (Initiator IP address)] フィールド	イニシエータ IP アドレスを入力します。 この IP アドレスは、選択したインターフェイスにバインドされ、iSCSI 操作に使用されます。
[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールド	イニシエータ IP のサブネット マスク。

パラメータ	説明
[ゲートウェイ IP (Gateway IP)] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。
[IQN 名 (IQN Name)] フィールド	イニシエータ IQN 名を入力できます。ACL が特定の IQN 名との接続を必須としている場合に必要です。  (注) 値が空白のままだと、自動生成された IQN 名が使用されます。  (注) IQN 名はベンダーのターゲット コンフィギュレーションに応じて必要な場合があります。
[CHAP ユーザ名 (CHAP Username)] フィールド	ターゲット ACL が CHAP を有効にし、CHAP クレデンシャルからのアクセスを義務付けている場合に必要です。
[CHAP パスワード (CHAP Password)] フィールド	ターゲット ACL が CHAP を有効にし、CHAP クレデンシャルからのアクセスを義務付けている場合に必要です。



(注) [iSCSI ディスク (iSCSI Disk)] は、[メディア タイプ (Media Type)] に常に表示されます。OS のインストールに iSCSI ディスクを選択すると、iSCSI ターゲットを検出するために必要な入力フィールドを入力する必要があります。iSCSI ターゲットを検出するには、[ディスクの取得 (Get Disks)] ボタンをクリックします。



(注) Cisco IMC で iSCSI パラメータを設定する場合は、プライマリ ターゲットに対する値のみを設定し、セカンダリ ターゲット値を空白のままにします。セカンダリ ターゲットを設定すると、ESXi のインストールは失敗します。



(注) iSCSI ソフトウェア ターゲットでの ESXi のインストールは、SCU 経由でサポートされません。

- d. [ディスクの選択 (Select Disk)] ドロップダウン リストから、OS をインストールするディスクを選択します。

ネットワーク設定

[ネットワーク設定 (Network Settings)] では、インストール時にオペレーティング システムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、Cisco IMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティング システムと Cisco IMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティング システムによって、オペレーティング システムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。



(注)

アクティブなネットワークのうち 1 つだけを設定する必要があります。このネットワーク インターフェイスが ESXi 管理ネットワークになります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [ネットワーク設定(Network Settings)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- [ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。
- ステップ 2** [ネットワーク設定(Network Settings)] を編集するには、次を実行します。
- a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
[ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b. [ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- [OK] をクリックします。

他の OS のインストール

高速インストール

[高速インストール(Quick Install)] オプションでは、デフォルト パラメータを使用してオペレーティング システムをすばやくインストールできます。ターゲット オペレーティング システムに応じたデフォルト パラメータを示す [OS インストール(OS Install)] ページを表示できます。高速インストールはユーザ入力が必要としない方法であり、ワンクリックでオペレーティング システムをインストールする方法です。

OS の高速インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** オペレーティング システムの無人インストール機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS インストール(OS Install)] をクリックします。
- [OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。
- ステップ 2** オペレーティング システムのオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- ステップ 3** [オペレーティングシステム (Operating System)] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのバージョンを選択します。

ステップ 4 (Windows の場合)[エディション(Edition)] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのエディションを選択します。

[デフォルト設定 (Default Settings)] 領域と、[高速インストール (Quick Install)] および [カスタム インストール (Custom Install)] ボタンが表示されます。

表 7-2 に、Windows OS の [デフォルト設定 (Default Settings)] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 7-2 デフォルトのパラメータ (Windows の場合)

パラメータ	デフォルト値
タイムゾーン (Time Zone)	米国中部標準時間 (Central American Standard Time)
名前 (Name)	admin
組織 (Organization)	Organization
コンピューター名 (Computer Name)	コンピュータ
ネットワーク (Network)	DHCP
ワーク グループ名 (Work Group Name)	WORKGROUP
ドライバ (Drivers)	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
ファイアウォール (Firewall)	無効
RDP	無効
ディスクの詳細 (Disk Details)	
ディスク名 (Disk Name)	LSI
ディスク サイズ (Disk Size)	40 GB 以上
パーティションの詳細 (Partition Details)	
ドライブ文字 (Drive Letter)	C
ファイル システム (File System)	NTFS
サイズ (MB) (Size (MB))	論理ディスクによって異なります

表 7-3 に、Red Hat Enterprise Linux OS の [デフォルト設定 (Default Settings)] 領域に表示されるデフォルト パラメータを示します。

表 7-3 デフォルトのパラメータ (Red Hat Enterprise Linux の場合)

パラメータ	デフォルト値
タイムゾーン (Time Zone)	America/New_York
名前 (Name)	root
デフォルト パスワード (Default Password)	password
ネットワーク (Network)	DHCP
ドライバ (Drivers)	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
ディスクの詳細 (Disk Details)	
ディスク名 (Disk Name)	LSI
ディスク サイズ (Disk Size)	論理ディスクによって異なります
パーティションの詳細 (Partition Details)	

表 7-3 デフォルトのパラメータ (Red Hat Enterprise Linux の場合) (続き)

パラメータ	デフォルト値
ドライブ文字 (Drive Letter)	
ファイル システム (File System)	ext3
サイズ (MB) (Size (MB))	論理ディスクによって異なります
ドライブ文字 (Drive Letter)	
ファイル システム (File System)	linux-swap
サイズ (MB) (Size (MB))	2048

表 7-4 に、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) OS の [デフォルト設定 (Default Settings)] 領域に表示されるデフォルト パラメータを示します。

表 7-4 デフォルトのパラメータ (SLES の場合)

パラメータ	デフォルト値
タイムゾーン (Time Zone)	America/New_York
名前 (Name)	root
デフォルト パスワード (Default Password)	password
ネットワーク (Network)	DHCP
ドライバ (Drivers)	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
ディスクの詳細 (Disk Details)	
ディスク名 (Disk Name)	LSI0-Logical Vol-2
ディスク サイズ (Disk Size)	論理ディスクによって異なります
パーティションの詳細 (Partition Details)	
ドライブ文字 (Drive Letter)	/
ファイル システム (File System)	ext3
サイズ (MB) (Size (MB))	論理ディスクによって異なります
ドライブ文字 (Drive Letter)	切り替え
ファイル システム (File System)	linux-swap
サイズ (MB) (Size (MB))	2048 以上

ステップ 5 [高速インストール(Quick Install)]をクリックしてインストールを実行します。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。



(注) オペレーティングシステムをインストールする前に論理ディスクが作成されていることを確認します。論理ディスクがない場合、次のようになります。

- ディスクの詳細が [デフォルト設定(Default Settings)] 領域に表示されない。
- [高速インストール(Quick Install)] および [カスタム インストール(Custom Install)] ボタンが表示されない。
- 次の警告メッセージが表示される。

論理ディスクがシステムに見つからないため、OS のインストールを実行できません。RAID 設定を使用して論理ディスクを作成してください。(OS Installation cannot be done as no logical disks found in the system. Please use RAID Configuration to create logical disks.)

カスタム インストール

[カスタム インストール (Custom Install)] オプションでは、デフォルト設定をカスタマイズできます。



(注)

パラメータが変更されない場合、カスタム インストールはデフォルトパラメータを使用して実行されます。表 7-2 および表 7-3 に、Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング システムのデフォルトパラメータと、SCU ブート メディアからのドライバのダウンロードを示します。

ここでは、次のオペレーティング システムのカスタム インストール手順について説明します。

- [Windows Server オペレーティング システムのインストール \(7-7 ページ\)](#)
- [Linux Server Series オペレーティング システムのインストール \(7-13 ページ\)](#)
- [SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール \(7-15 ページ\)](#)

Windows Server オペレーティング システムのインストール

Windows Server オペレーティング システムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** オペレーティング システムの無人インストール機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS インストール (OS Install)] をクリックします。[OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Windows] オプション ボタンをクリックし、[オペレーティング システム (Operating System)] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します。
- [エディション (Edition)] ドロップダウン リストが表示されます。
- ステップ 3** [エディション (Edition)] ドロップダウン リストから、エディションを選択します。
- [デフォルト設定 (Default Settings)] 領域と、[高速インストール (Quick Install)] および [カスタム インストール (Custom Install)] ボタンが表示されます。



(注) ドロップダウン リストの [Windows Server 2008 R2] オプションは、Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 R2 SP1 で同じです。使用するインストール CD に応じて (Win2k8 R2 または Win2k8R2 SP1)、対応する Windows OS バージョンがインストールされます。

- ステップ 4** [カスタム インストール (Custom Install)] をクリックします。
- 実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS インストール (OS Install)] ページに次の折りたたみ可能ウィンドウのリストが表示されます。
- [パーソナライゼーション (Personalization)] : パーソナライズ設定を行うには、[パーソナライゼーション \(7-8 ページ\)](#) に進みます。
 - [インストール パーティション (Installation Partitions)] : インストール パーティションを設定するには、[インストール パーティション \(7-8 ページ\)](#) に進みます。

- [ネットワーク設定 (Network Settings)] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(7-9 ページ\)](#) に進みます。
- [インストール ドライバ (Installation Drivers)] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(7-11 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 5 [インストール(Install)]をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入するように要求する、[OS インストール (OS Install)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 オペレーティング システム CD を挿入し、[Ok]をクリックします。

システムがリブートし、オペレーティング システムのインストールが開始されます。

パーソナライゼーション

パーソナライズ設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [パーソナライゼーション(Personalization)]をクリックして対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 [パーソナライゼーション(Personalization)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [タイム ゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リストから、タイム ゾーンを選択します。
- [名前 (Name)] フィールドに、管理者の名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
- [組織 (Organization)] フィールドに、管理者の組織名を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- ライセンスをアクティブ化する必要がある場合は、[ライセンス情報 (License Information)] オプション ボタンのいずれかを選択し、25 文字のプロダクト キーを入力します。
- [コンピュータ名 (Computer Name)] フィールドに、サーバの名前を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- [説明 (Description)] フィールドに、サーバの説明を入力します。最大文字数は 25 文字です。

インストールパーティション

インストール パーティションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [インストール パーティション(Installation Partitions)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 [インストール パーティション(Installation Partitions)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [ディスクの選択 (Select Disk)] ドロップダウン リストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。
- 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。
ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域 (MB 単位) が表示されます。
- パーティションを編集するには、次の手順を実行します。
 - 編集するパーティションを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
 - [パーティションの編集 (Edit Partition)] ダイアログボックスが表示されます。

- [パーティションの編集 (Edit Partition)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [ドライブ文字 (Drive Letter)] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [サイズ (Size)] テキスト フィールドに、パーティション サイズを入力します。



(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

- [ファイル システム (File system)] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
- [OK] をクリックして変更を保存します。

d. 新しいパーティションを作成するには、次の手順を実行します。

- 空き領域を選択し、[新規 (New)] をクリックします。
[パーティションの作成 (Create Partition)] ダイアログボックスが表示されます。
- [パーティションの作成 (Create Partition)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [ドライブ文字 (Drive Letter)] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [サイズ (Size)] フィールドで、ディスク サイズを編集します。



(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

- [ファイル システム (File System)] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
- [OK] をクリックします。

e. パーティションを削除するには、次の手順を実行します。

- 削除するパーティションを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
[OS インストール (OS Install)] ダイアログボックスが表示されます。
- [はい (Yes)] をクリックしてパーティションを削除します。



(注) Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップ パーティションが必要です。パーティション作成プロセス中にサイズを指定しないと、UCS-SCU はアラート メッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

ネットワーク設定

[ネットワーク設定 (Network Settings)] では、インストール時にオペレーティング システムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、Cisco IMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティング システムと Cisco IMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティング システムによって、オペレーティング システムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [ネットワーク設定(Network Settings)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2 [ネットワーク設定(Network Settings)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. [ワーク グループ (Work Group)] または [ネットワーク ドメイン (Network Domain)] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[ネットワークなし (No network)] または [ドメインなし (No domain)] オプション ボタンを選択します。[ワーク グループ名 (Work Group Name)] フィールドにワークグループ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [このドメインに参加する (Join this Domain)] オプション ボタンを選択し、次の手順を実行します。
 - [ドメイン名 (Domain Name)] テキスト フィールドにドメインの名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [ドメイン ユーザ名 (Domain Username)] にドメインのユーザ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [ドメイン パスワード (Domain password)] にドメインのパスワードを入力します。最大文字数は 20 文字です。
- b. リモート アクセス設定の [リモート アクセス (RDP) を有効にする (Enable Remote Access (RDP))] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- c. ファイアウォール設定の [ファイアウォールを無効にする (Disable Firewall)] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- d. [DNS サフィックス/ドメイン (DNS Suffix/Domain)] フィールドにドメインの DNS サフィックスを指定します。最大文字数は 25 文字です。
- e. [DNS サフィックス検索順序 1 (DNS Suffix Search Order 1)] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- f. [DNS サフィックス検索順序 2 (DNS Suffix Search Order 2)] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- g. [プロキシアドレス (Proxy Address)] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。最大文字数は 30 文字です。
- h. [ポート (Port)] フィールドにプロキシ サーバのポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。
- i. 次の手順を実行して、[ネットワーク設定 (Network Settings)] を編集します。
 - ネットワーク インターフェイスを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
[ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスが表示されます。
 - [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。

- [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
- [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- [OK] をクリックします。

インストール ドライバ

UCS-SCU は、ドライバのソースからダウンロードされた使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティング システムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [インストール ドライバ (Installation Drivers)] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルから、インストールするドライバを選択します。
- ドライバが [インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルにない場合は、[インストール ドライバ (Installation Drivers)] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかの方法を選択します。
- [Cisco.com からのダウンロード \(7-11 ページ\)](#)
 - [SCU ブート メディアからのダウンロード \(7-12 ページ\)](#)
 - [ネットワーク共有からのダウンロード \(7-12 ページ\)](#)
 - [USB からのダウンロード \(7-13 ページ\)](#)

Cisco.com からのダウンロード

シスコのサポート Web サイトから最新のドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [Cisco.com から (From Cisco.com)] をクリックします。



(注) ダウンロード中に、サーバが 1 つのネットワークだけに接続されていることを確認します。

ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[デバイス パッケージの選択 (Select Device Packages)] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、[ステップ 2](#)に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

- ステップ 2** [ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- ネットワークを設定する IP アドレスを入力します。ネットワークの設定の詳細については、[「ネットワークの設定」セクション \(3-5 ページ\)](#) を参照してください。
 - [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [パスワード (Password)] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

- ステップ 3** [デバイス パッケージの選択 (Select Device Packages)] ダイアログボックスで、必要なドライバ パッケージを選択し、[OK] をクリックします。
- 進捗メッセージが表示され、[インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルにドライバのリストが読み込まれます。

SCU ブート メディアからのダウンロード

Tools and Drivers CD に格納されているドライバ パッケージを直接使用するには、この手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [SCU ブート メディアから (From SCU Boot media)] をクリックします。
- 進捗メッセージが表示され、[インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルにドライバのリストが読み込まれます。



(注) UCS-SCU はデフォルトでこのオプションを選択します。

ネットワーク共有からのダウンロード

ネットワーク共有フォルダに格納されているドライバ パッケージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [ネットワーク共有から (From Network Share)] をクリックします。
- ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[ネットワークのロケーション (Network Location)] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、[ステップ 2](#)に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
- ステップ 2** [ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスで、ネットワークを設定する IP アドレスを入力します。ネットワークの設定方法の詳細については、[「ネットワークの設定」セクション \(3-5 ページ \)](#)を参照してください。
- ステップ 3** 表示された [ネットワークのロケーション (Network Location)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。
 - [パスワード (Password)] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。
 - [ネットワークのロケーション (Network Location)] フィールドに、ドライバが格納されている zip フォルダのパス名を入力します。
 - [接続 (Connect)] をクリックします。
- ファイル ダイアログボックスに、ドライバが格納されている zip フォルダの一覧が表示されます。

- e. zip ファイルを選択します。
 - f. [開く (Open)] をクリックします。
選択した zip ファイルが [ネットワークのロケーション (Network Location)] ダイアログボックスにパッケージ名として表示されます。
 - g. [OK] をクリックします。
- 進捗メッセージが表示され、[インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルにドライバのリストが読み込まれます。

USB からのダウンロード

USB キーまたは USB ハード ドライブに保存されているドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [USB から (From USB)] をクリックします。
ファイル ダイアログボックスに USB のフォルダの一覧が表示されます。
- ステップ 2** ドライバが格納された zip ファイルを参照します。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
進捗メッセージが表示され、[インストールするドライバの選択 (Choose Drivers to Install)] テーブルにドライバのリストが読み込まれます。

Linux Server Series オペレーティング システムのインストール

Linux オペレーティング システムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [OS インストール (OS Install)] をクリックして、オペレーティング システムの無人インストール機能エリアを開始します。
[OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [RHEL] オプション ボタンをクリックし、[オペレーティング システム (Operating System)] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します
[デフォルト設定 (Default Settings)] 領域と、[高速インストール (Quick Install)] および [カスタム インストール (Custom Install)] ボタンが表示されます。
- ステップ 3** [カスタム インストール (Custom Install)] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS インストール (OS Install)] ページに次の折りたたみ可能ウィンドウのリストが表示されます。
 - [基本設定 (Basic Configuration)] : パーソナライズ設定を行うには、[基本設定 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。
 - [インストール パーティション (Installation Partitions)] : インストール パーティションを設定するには、[インストール パーティション \(7-8 ページ\)](#) に進みます。
 - [パッケージの選択 (Package Selection)] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。

- [ネットワーク設定 (Network Settings)] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。
- [インストール ドライバ (Installation Drivers)] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(7-11 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 4 [インストール(Install)]をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS インストール (OS Install)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [OK]をクリックします。

ステップ 6 UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入します。

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [基本設定(Basic Configuration)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 [基本設定(Basic Configuration)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [ルート パスワード (Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
- [ルート パスワードの確認 (Confirm Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを再入力します。
- [デフォルトの言語 (Default Language)] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
- [キーボード (Keyboard)] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
- [タイム ゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リストから、タイム ゾーンを選択します。
- [追加言語 (Additional Languages)] リストで、適用するすべての言語を選択します。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [パッケージの選択(Package Selection)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [ネットワーク設定(Network Settings)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2 [ネットワーク設定 (Network Settings)] を編集するには、次を実行します。

- a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
[ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスが表示されます。
- b. [ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
 - [OK] をクリックします。

SUSE Linux サーバオペレーティングシステムのインストール

SLES オペレーティングシステムの無人インストールを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 オペレーティング システムの無人インストール機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS インストール (OS Install)] をクリックします。

[OS インストール (OS Install)] ページが表示されます。

ステップ 2 [SLES] オプション ボタンをクリックし、[オペレーティング システム (Operating System)] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します

[デフォルト設定 (Default Settings)] 領域と、[高速インストール (Quick Install)] および [カスタム インストール (Custom Install)] ボタンが表示されます。

ステップ 3 [カスタム インストール (Custom Install)] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS インストール (OS Install)] ページに次の折りたたみ可能ウィンドウのリストが表示されます。

- [基本設定 (Basic Configuration)] : パーソナライズ設定を行うには、[基本設定 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。
- [インストール パーティション (Installation Partitions)] : インストール パーティションを設定するには、[インストール パーティション \(7-8 ページ\)](#) に進みます。
- [パッケージの選択 (Package Selection)] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。
- [ネットワーク設定 (Network Settings)] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(7-14 ページ\)](#) に進みます。
- [インストール ドライバ (Installation Drivers)] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(7-11 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 4 [インストール (Install)] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS インストール (OS Install)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [OK]をクリックします。

ステップ 6 UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入します。

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [基本設定(Basic Configuration)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 [基本設定(Basic Configuration)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [ルート パスワード (Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
- [ルート パスワードの確認 (Confirm Root Password)] に、ルート パスワードを再入力します。
- [デフォルトの言語 (Default Language)] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
- [キーボード (Keyboard)] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
- [タイム ゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リストから、タイム ゾーンを選択します。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [パッケージの選択(Package Selection)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [ネットワーク設定(Network Settings)]をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2 [ネットワーク設定(Network Settings)] を編集するには、次を実行します。

- a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
[ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスが表示されます。
- b. [ネットワーク設定 (Network Settings)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。

- [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
 - [OK] をクリックします。
-



RAID レベルの設定

RAID 設定

RAID 設定機能を使用して、オンボードまたは PCIe でサポートされる RAID コントローラ カードを設定できます。

システムに複数の RAID コントローラがある場合、UCS-SCU は、[RAID 設定(RAID Configuration)] ページに、すべての使用可能な RAID カードと、物理および論理ディスクのリストを表示します。

次の RAID 設定オプションを使用できます。

- 冗長性を伴う自動セットアップ
- 冗長性を伴わない自動セットアップ
- 単一の RAID レベル: RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 6
- ネストされた RAID レベル: RAID 10、RAID 50、および RAID 60

ここでは、次の内容について説明します。

- [\[RAID 設定\(RAID Configuration\)\] ページのコンポーネント \(8-1 ページ\)](#)
- [RAID アレイの設定 \(8-3 ページ\)](#)
- [RAID アレイのクリア \(8-7 ページ\)](#)

[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページのコンポーネント

ここでは、[RAID 設定(RAID Configuration)] ページについて説明します。内容は次のとおりです。

- [\[物理ディスク \(Physical Disks\)\] テーブル \(8-1 ページ\)](#)
- [\[論理ディスク \(Logical Disks\)\] テーブル \(8-2 ページ\)](#)

[物理ディスク (Physical Disks)] テーブル

[RAID 設定(RAID Configuration)] ページの [物理ディスク (Physical Disks)] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

- [ID]: 物理ディスクの識別番号。
- [スロット (Slot)]: 物理ディスクが属するスロット。
- [状態 (State)]: ディスクのステータス。さまざまなディスク状態の詳細については、[表 8-1](#)を参照してください。

- [サイズ(Size)]: 物理ディスクのサイズ。
- [デバイス速度(Device Speed)]: コントローラのディスク アクセス速度。
- [リンク速度(Link Speed)]: コントローラのリンク速度。
- [論理ディスク(Logical Disk)]: 物理ディスクが属する論理ディスク。

表 8-1で、さまざまなディスク ステータス状態について説明します。

表 8-1 ディスク ステータス状態

ステータス状態	説明
オンライン(Online)	ドライブが別のアレイですでに使用されています。
グローバル ホットスペア(Global Hotspare)	障害が発生したドライブが、ホット スペア ドライブの容量以下である場合に、ドライブ障害があるシステム内のアレイを修復するために使用されます。
未設定で良好(Unconfigured Good)	ドライブは未使用または使用可能です。
待受開始(Ready)	ドライブはオンラインで、正しく動作しています。
オフライン(Offline)	ドライブはオフラインまたは存在しません。ドライブがオンラインになるまで、ドライブに対する操作は実行できません。
未設定で不良(Unconfigured Bad)	ドライブが動作しておらず、交換する必要があります。 ステータスが「未設定で不良(Unconfigured bad)」のディスクは、RAID 設定に使用できません。
外部(Foreign)	ドライブが、他のコントローラで作成されたアレイか、あるエンクロージャ内で作成され、同じコントローラの別のエンクロージャに移動されたアレイに属しています。設定を削除した後、新しいアレイの作成に使用できます。

[論理ディスク (Logical Disks)] テーブル

[RAID 設定(RAID Configuration)] ページの論理ディスク ペインには、論理ディスクに関する情報が表示されます。

表 8-2で、RAID アレイの属性について説明します。

表 8-2 RAID アレイの属性

オプション	説明
ID	論理ディスクの一意の ID。
サイズ(Size)	論理ドライブのサイズ。最大値は、選択した RAID レベルと、関係する物理ディスクのサイズによって異なります。
プライマリ RAID レベル(Primary RAID level)	RAID 0(データ ストライピング)、1(ディスク ミラーリング)、5(パリティをストライプしたデータ ストライピング)、6(分散パリティとディスク ストライピング)。
セカンダリ RAID レベル(Secondary RAID level)	ネストされた RAID レベルのみに適用されます。

表 8-2 RAID アレイの属性 (続き)

オプション	説明
ストライプ サイズ (Stripe size)	すべてのディスクのデータ ストライプのサイズ。各物理ディスクのデータ ストライプはこれよりも小さくなります。すべてのストライプの合計がストライプのサイズになります。
読み取りポリシー (Read policy)	[先読みなし (No Read Ahead)]、[先読み (Read Ahead)]、[適応 (Adaptive)]。[先読み (Read Ahead)] では、追加で連続するストライプを読み取ります。[適応 (Adaptive)] の場合、シーケンシャルな読み取りに対して [先読み (Read Ahead)] が有効になり、ランダムな読み取りに対しては無効になります。
書き込みポリシー (Write policy)	[ライト スルー (Write Through)] または [ライト バック (Write Back)]。[ライト スルー (Write Through)] では、データがディスクに書き込まれるときに、書き込み操作の I/O 完了が通知されます。[ライト バック (Write Back)] では、データがキャッシュに転送されるときに、I/O 完了が通知されます。
キャッシュ ポリシー (Cache policy)	[ダイレクト I/O (Direct I/O)] または [キャッシュ I/O (Cached I/O)]。確認なしの読み書き操作を行う場合は [ダイレクト I/O (Direct I/O)] を選択します。すべての書き込み操作をキャッシュし、読み取り操作について最初にキャッシュを確認するには、[キャッシュ I/O (Cached I/O)] を選択します。

RAID アレイの設定

未設定の正常なディスクのみを RAID 設定に使用できます。すでに RAID の一部になっているディスクは RAID 設定に使用できません。

カスタムまたは複数の RAID アレイを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで、[サーバの設定 (Server Configuration)] をクリックし、[RAID 設定 (RAID configuration)] をクリックします。
[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。
- ステップ 2 ページの右上にある [RAID の設定 (Configure RAID)] アイコンをクリックします。
[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページが表示されます。
- ステップ 3 [RAID レベル (RAID level)] ドロップダウン リストから、次の RAID レベルのいずれかを選択します。

- [冗長性を伴わない自動セットアップ \(8-4 ページ\)](#)
- [冗長性を伴う自動セットアップ \(8-4 ページ\)](#)



(注) 冗長性の有無に関係なく、自動セットアップは、すべての既存の RAID アレイを上書きします。

- [Single-Level RAID の設定 \(8-5 ページ\)](#)
- [ネストされた RAID の設定 \(8-6 ページ\)](#)

- ステップ 4 [アレイの作成 (Create Array)] をクリックします。



(注) [アレイの作成 (Create Array)] ボタンは、最低限必要な数のドライブ グループが作成されている場合にのみ有効です。

経過表示バーが表示され、RAID 設定の完了を示す [RAID 設定 (RAID Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [OK]をクリックします。

[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページが表示されます。次の内容を表示できます。

- ドライブ グループ情報は、[論理ディスク (Logical Disks)] テーブルに表示されます。
- 物理ディスク情報は、[物理ディスク (Physical Disks)] テーブルに表示されます。
- ドライブ グループに属する物理ディスクのステータスが [オンライン (Online)] に変わり、バックアップ物理ディスクのステータスが [ホット スペア (Hot spare)] に変わります。

冗長性を伴わない自動セットアップ

冗長性を伴わない自動セットアップでは、1 つ以上のハード ドライブが必要です。UCS-SCU はこのオプションで RAID 0 を作成します。



(注) HDD の数が 32 を越えている場合は、このオプションが機能しません。

表 8-3に、冗長性を伴わない自動セットアップで表示されるデフォルト値を示します。

表 8-3 冗長性を伴わない自動セットアップのデフォルト値

パラメータ	値
コントローラ (Controller)	MegaRAID SAS <family>
RAID レベル (RAID Level)	0
ストライプ サイズ (Stripe Size)	64
読み取りポリシー (Read Policy)	先読みなし (No Read Ahead)
書き込みポリシー (Writer Policy)	ライト バック (Write Back)
キャッシュ ポリシー (Cache Policy)	ダイレクト IO (Direct IO)
サイズ (MB) (Size (MB))	物理ディスクのサイズによって異なります



(注) 共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

冗長性を伴う自動セットアップ

冗長性を伴う自動セットアップは、デフォルトの RAID 設定のオプションです。この設定では、少なくとも 2 台の物理ドライブが使用可能である必要があります。2 台の物理ディスクが使用できない場合、デフォルトの RAID 設定は、冗長性を伴わない自動セットアップになります。



(注) HDD の数が 32 を越えている場合は、このオプションが機能しません。

表 8-4に、表示されるデフォルト値を示します。

表 8-4 冗長性を伴う自動セットアップのデフォルト値

パラメータ	値
コントローラ (Controller)	MegaRAID SAS <family>
RAID レベル (RAID Level)	1
ストライプ サイズ (Stripe Size)	64
読み取りポリシー (Read Policy)	先読みなし (No Read Ahead)
書き込みポリシー (Writer Policy)	ライト バック (Write Back)
キャッシュ ポリシー (Cache Policy)	ダイレクト IO (Direct IO)
サイズ (MB) (Size (MB))	論理ディスクのサイズによって異なります



(注)

共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

Single-Level RAID の設定

Single-Level RAID を設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します (0、1、5、6 のいずれか)。
- [ドライブ グループ (Drive Groups)] ペインに物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を確認するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます。
- ステップ 2** [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、[ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 8-5 に、RAID レベルごとに必要な物理ディスクの最小数を示します。

表 8-5 必要な物理ドライブの最小数

RAID レベル	必要な物理ディスクの数
RAID 0	1
RAID 1	2
RAID 5	3
RAID 6	4

- ステップ 3** [ドライブ グループの作成 (Create Drive Group)] をクリックします。



(注)

[ドライブ グループの作成 (Create Drive Group)] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに追加されます。



(注)

[ドライブ グループの削除 (Delete Drive Group)] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。

- ステップ 4 [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、ホット スペア ドライブまたはスタンバイ ドライブとして使用するドライブを選択します。
- ステップ 5 [ストライプ サイズ (Stripe Size)] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
- ステップ 6 [読み取りポリシー (Read Policy)] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
- ステップ 7 [書き込みポリシー (Write Policy)] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
- ステップ 8 [キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
- ステップ 9 [サイズ (MB) (Size (MB))] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。

ネストされた RAID の設定

ネストされた RAID レベルには、プライマリとセカンダリの RAID レベルがあります。ネストされた RAID レベルには 2 つ以上のドライブ グループを作成する必要があり、各ドライブ グループには同じ数の物理ディスクが必要です。

ネストされた RAID レベルを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [RAID] ドロップダウン リストから、ネストされた RAID レベルを選択します。
- [ドライブ グループ (Drive Groups)] ペインに物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を確認するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます。
- ステップ 2 [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、[ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 8-6 に、必要な物理ディスクおよびデータ グループの最小数を示します。

表 8-6 必要な物理ドライブおよびデータ グループの最小数

RAID レベル	物理ディスクの最小数	データ グループの最小数
RAID 10	4	2
RAID 50	6	2
RAID 60	8	2

- ステップ 3 [ドライブ グループの作成 (Create Drive Group)] をクリックします。



(注) [ドライブ グループの作成 (Create Drive Group)] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに追加されます。



(注) [ドライブ グループの削除 (Delete Drive Group)] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。

- ステップ 4 [ストライプ サイズ (Stripe Size)] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
- ステップ 5 [読み取りポリシー (Read Policy)] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。

- ステップ 6 [書き込みポリシー (Write Policy)] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
- ステップ 7 [キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
- ステップ 8 [サイズ (MB) (Size (MB))] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。
-

RAID アレイのクリア

[RAID 設定 (RAID Configuration)] ページを使用して、作成したすべての仮想ディスクまたは特定のディスクを削除してディスク領域を解放できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [すべての仮想ディスクの削除 \(8-7 ページ\)](#)
- [単一または複数ディスクの削除 \(8-7 ページ\)](#)

すべての仮想ディスクの削除

すべてのディスクを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで、[サーバの設定 (Server Configuration)] をクリックし、[RAID 設定 (RAID configuration)] をクリックします。
- [RAID 設定 (RAID Configuration)] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。
- ステップ 2 ページの右上にある [設定のクリア (Clear Configuration)] アイコンをクリックします。
- [RAID 設定 (RAID Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3 [はい (Yes)] をクリックして操作を確定します。
- [論理ディスク (Logical Disks)] のすべての仮想ディスクがクリアされ、ハードディスクの状態が [未設定で良好 (Unconfigured Good)] に変わります。
-

単一または複数ディスクの削除

単一の RAID レベルおよびネストされた RAID レベルでは、未設定の正常な物理ディスクの数が、選択された RAID レベルに必要な最小数よりも少ない場合、[RAID 設定 (RAID Configuration)] ダイアログボックスが表示され、物理ディスクを解放するために論理ディスクを削除する必要があることが示されます。

論理ディスクを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 表示される [RAID 設定 (RAID Configuration)] ダイアログボックスで、[はい (Yes)] をクリックします。
- [論理ディスクの削除 (Delete Logical Disks)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2 削除する論理ディスクを選択します。論理ディスクに属する物理ディスクがダイアログボックスの下部に表示されます。



(注) 論理ディスクを削除すると、ディスクに保存されているすべての情報にアクセスできなくなります。

ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



ログの表示

UCS-SCU のログ機能を使用してサーバ ログを調査し、修正処理を実施できます。UCS-SCU は、次の種類のログを提供します。

- [システム ログ \(9-1 ページ\)](#)
- [システム イベント ログ \(9-1 ページ\)](#)

システム ログ

システム ログ ファイルには、オペレーティング システム コンポーネントによって記録されたイベントが表示されます。これらのイベントは、多くの場合、オペレーティング システム自体によって事前に決定されています。システム ログ ファイルは、デバイスの変更、デバイス ドライバ、システム変更、イベント、操作などに関する情報を表示します。

システム ログを表示するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [ログ(Logs)] をクリックします。
 - ステップ 2** [システム ログ(System Logs)] をクリックします。
 - ステップ 3** フィルタ ドロップダウン リストからフィルタを選択します。
 - ステップ 4** [実行(Go)] をクリックします。
システム ログが表示されます。
-

システム イベント ログ

システム イベント ログ ファイルには、サーバによって記録されたイベントが表示されます。

システム イベント ログを表示するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [ログ(Logs)] をクリックします。
 - ステップ 2** [システム イベント ログ(System Event Log)] をクリックします。
 - ステップ 3** ドロップダウン リストから、[説明(Description)] または [重大度(Severity)] フィルタを選択します。
 - [説明(Description)] フィルタを選択して [実行(Go)] をクリックすると、説明と重大度を含むすべてのシステム イベント ログが表示されます。

- [重大度 (Severity)] フィルタを選択した場合は、2 番目のドロップダウン リストから重大度のタイプを選択し、[実行 (Go)] をクリックします。指定した重大度タイプのログのリストが表示されます。
 - 適用したフィルタをクリアするには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] をクリックします。
-



トラブルシューティング

この章では、UCS-SCU アプリケーションの使用時に利用可能なさまざまなトラブルシューティング オプションを示します。

UCS-SCU 問題および解決方法

- OS のインストール プロセスが中断され、サーバがリブートする。
ウォッチドッグ タイマーの設定値を確認します。ウォッチドッグ タイマーは、C シリーズサーバの BIOS の新機能です。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも短い期間に設定されていると、OS のインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。OS のインストール プロセスを開始する前に、ウォッチドッグ タイマー機能をディセーブルにします。
- 仮想 USB をマッピングするか、物理的な USB を接続した後でも、UCS-SCU で次のメッセージが表示される。

USB ディスクオンキーが検出されません (No USB Disk on Key detected)

- vmedia を介してマッピングした USB デバイスについては、vmedia GUI から [USB リセット (USB reset)] の選択を試みます ([仮想メディア セッション (virtual media session)] -> [詳細 (details)] -> [USB リセット (USB reset)])。
- 物理的な USB デバイスについては、ベンダーおよび製品情報を確認するか、異なるデバイスを試します。
- Windows OS をインストールした後、KVM マウスが動作せず、Windows デバイス マネージャで、USB ヒューマン インターフェイス デバイスに黄色の「!」が表示される。
Cisco IMC のバージョンを確認します。サーバに最新版の Cisco IMC がインストールされていることを確認します。
- Windows のインストールが失敗し、次のメッセージが表示される。

選択したディスクに MBR パーティション テーブルが含まれています。EFI システムでは、Windows を GPT ディスクにのみインストールできます。(Selected disk has MBR partition table. On EFI systems, Windows can only be installed to GPT disks.)

- 仮想ドライブの EFI CD-ROM デバイスが、Windows 2008 イメージのブートに使用されました。BIOS の CD-ROM 順から CD-ROM デバイスを使用します。
- UCS-SCU を通じて Windows オペレーティング システムをインストールした後、Windows デバイス マネージャで一部のデバイスに黄色の「!」が表示される。
 - デバイスがシスコのサポート マトリクスに含まれていない可能性があります。
 - SCU GUI で一部のデバイス ドライバを選択していない可能性があります。

- Windows セットアップが BSOD 0x7B (ブート デバイスがアクセス不可) で失敗する。
SCU GUI でブート コントローラのデバイス ドライバを選択していない可能性があります。
- Cisco IMC の変更が UCS-SCU ですぐに反映されない。
サーバが SCU によって起動されている場合、Cisco IMC を使用して仮想ディスクに対して行った変更は、SCU のユーザ インターフェイスですぐに表示されない場合があります。
Cisco IMC と同期するように、サーバをリブートします。
- 電源投入時セルフ テスト (POST) 中に、LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 コントローラの両方が検出されるが、LSI 2008 コントローラのみが UCS-SCU に表示される。
LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 は、UCS-SCU で同時にサポートされません。両方が存在する場合、LSI 2008 のみが検出されます。LSI 内蔵 MegaRAID を検出するには、コントローラを取り外します。
- SCU のインベントリが影響を受ける。
サーバに、GPT パーティションを使用した USB ドライブが接続されているかどうか確認します。接続されている場合は、USB ドライブを取り外し SCU をリブートするか、または GPT パーティションなしの USB スティックを使用するか再フォーマットします。
- C220 M4 および C240 M4 サーバでクイック テスト、テストスイート、包括的なテストを実行している間は、QPI リンク、PDisk、およびネットワーク リンク コンポーネントで障害が発生する。
 - PDisk の障害を解決するには、JBOD をディセーブルにします。JBOD オプションがイネーブルにされていると、PDisk は HDD テストを実行するための仮想ドライブを HDD 上に作成できません。
 - ネットワーク インターフェイス リンクの障害を解決するには、ネットワーク ケーブルがネットワーク ポートに接続されているかどうか確認します。接続されている場合は、エラー メッセージを無視します。